

教育目標	
	豊かな心をもち、よく遊び、健やかに伸びる子どもの育成
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
	今年度は、特に、一人一人のめあてや課題とともに、集団としての育ちにも着目しながら、確かな教育活動を行う上での教師の援助の在り方について掘り下げることで、本園の教育目標である『豊かな心をもち、よく遊び、健やかに伸びる子どもの育成』の実現に取り組んだ。中でも、教師が無意識に行っている保育の中での『瞬間的判断』（援助の根拠となる教師自身の心の動き）を、文章化、明確化することで、教師自身が意識化すること、また、教師同士が共有することができた。目に見え辛い保育を可視化することができたことは大きな成果であり、子どもの健やかな育成につながると考える。 しかし、昨年度から続くコロナ禍にあつては、感染防止対策に留意した上である程度の制限のある中であっても、子どもの育ちをしっかりと保障する教育の在り方を問い続ける1年であった。特に、ICTの活用については、本園ではまだ不十分である。次年度は、積極的にICTの活用という観点からも教育を充実させていきたい。
学校関係者	学校関係者による意見・支援策
	保護者のアンケート結果や自由記述からも、幼稚園の教育に対して十分満足を感じているということがわかる。実際、子どもたちの姿を見ていると、例年以上に、物事に対する取り組みの真剣さ、がんばりを感じる場面も多く、十分な育ちが感じられる。 ただ、その子どもたちの姿を保護者に実際に見てもらえる機会が減ったことで、保護者が子どもの育ちを実感すること、また、家庭で幼稚園での子どもの様子を話す機会がなかったことなどの残念な面がある。仕方がないこととはいえ、それを改善できればと願う。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和3年10月7日（木）	学校運営協議会（なかよし会）
最終評価	令和4年3月14日（月）	学校運営協議会（なかよし会）

（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組	
	・園内研修を通して、教師との信頼関係を基盤に、いろいろな人とかわり、友達とつながり合い遊びを進めていくことのできる保育環境や教師の援助を探り、子どもの育ちを確かめる ・友達とつながり合い、遊びを進めていくために ICT 機器等も活用しながら、子どもの主体的な活動の幅を広げたり促したりする。その中での子どもの見取りや教師の手立てについて、日々の振り返りや週案を見直し、次の保育に活かす ・発達段階に応じて、友達とつながり合い、協同して遊ぶ楽しさを味わえるように、個々やクラスの遊びを大事にしながら、異年齢の子どもたちが共に遊ぶ活動も計画的に取り入れる

- ・学校運営協議会や地域のゲストティチャーと交流し、親しみを感じたり、地域に愛着をもったりし、社会の一員として必要な公共心の芽生えを育んでいけるような保育を進める
- ・動植物に愛情をもってかかわり、変化や生長に気づき、喜びを味わったり、大切にしようという気持ちをもったりできるように取り組む
- ・相手の話に興味をもって聞く姿勢が育つように、絵本の読み聞かせやクラスでの話し合いなど発達段階に応じた取組を進める

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿を見取る
- ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る
- ・アンケート項目
 - ①「子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しいと感じている」
 - ②「子どもは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいる」
 - ③「子どもは、先生や友達とかかわることを楽しんでいる」
 - ④「子どもは、自分の思いを話したり、友達の話を聞いたりしている」
 - ⑤「子どもは、幼稚園兄弟を知り、親しみを感じ始めている」
 - ⑥「子どもは、自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいる」
 - ⑧「子どもは、手洗い・うがいや持ち物の始末、着替えを自分でしようとしている」

中間評価

各種指標結果

- ・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿を見取る
- ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る
- ・アンケート項目（大変そう思う A、そう思う B、あまり思わない C、思わない D、無回答 E）
 - ①「子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しいと感じている」 A84% B13% C0% D0% E3%
 - ②「子どもは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいる」 A84% B13% C0% D0% E3%
 - ③「子どもは、先生や友達とかかわることを楽しんでいる」 A81% B16% C0% D0% E3%
 - ④「子どもは、自分の思いを話したり、友達の話を聞いたりしている」 A44% B34% C16% D0% E6%
 - ⑤「子どもは、自分の幼稚園兄弟を知り、親しみを感じ始めている」 A47% B41% C6% D0% E6%
 - ⑥「子どもは、自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいる」 A63% B31% C3% D0% E3%
 - ⑧「子どもは、手洗い・うがいや持ち物の始末、着替え等を自分でしようとしている」 A52% B42% C3% D0% E3%

自己評価

分析を踏まえた取組の改善

アンケートにおいては、すべての項目について A・B 評価が多く、幼稚園の取組、子どもたちの育ちについての理解がなされていることが伺えた。中でも、園内研修でも取り上げている人とかかわりや友達とのつながりを大切にした保育、広い園庭という自園の特色を活かして、体を動かして遊ぶことを進めてきた取組については、大変評価も高く、今年度の園の教育の方向性を深く理解し評価していると考えられるので、今後も、しっかりと取り組んでいきたい。

幼稚園兄弟の取組については、学年を越えた取組ができなかったこともあり、例年のような年長児へのあこがれの思いや年少児に対するいたわりの気持ちなどが見られる場面はほとんどなかった。今後の活動において、積極的に進めていきたい。

手洗いや消毒などにおいては、コロナ感染防止の観点からも、教職員とともに子どもたち自身もきちんとしようとする思いが育ってきている。しかし、身の周りの始末のような生活習慣については、保護者も教職員も、もっと自分自身でやろうとする力をつけさせたいと願っている。家

	庭と協力・連携しながら取り組んでいきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 異年齢のかかわりについては、今後、感染症の情勢を見ながら取組を進めていく。また、友達との関係において、自分の思いを出せるだけでなく、相手の思いに耳を傾けたり、相手に伝えようとしながら話したりすることを大切に育てていきたい。 更に、園庭での遊びにおいては、運動会のような共通の経験を踏まえ、学年をこえて共に取り組む遊びを進めるとともに、園庭の環境の見直しも行っていきたい。 また、生活習慣の確立については、今後も引き続き大切に取り組んでいく。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿を見取る ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る ・アンケート項目 ① 「子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しいと感じている」 ② 「子どもは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいる」 ③ 「子どもは、先生や友達とかかわることを楽しんでいる」 ④ 「子どもは、自分の思いを話したり、友達の話を聞いたりしている」 ⑤ 「子どもは、幼稚園兄弟とかかわることを楽しみ、異年齢とのかかわりで成長が感じられる」 ⑥ 「子どもは、自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいる」 ⑧ 「子どもは、手洗い・消毒や持ち物の始末、着替え等を自分でしようとしている」
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 コロナ禍の中、保護者との信頼関係を大切に、日々の保育に取り組んでいることが伝わってくる。子どもたちの安定した姿や前期のアンケート結果からも、子どもや保護者の幼稚園に対する信頼感を感じる。 参観や懇談の実施が難しく、保護者が直接子どもたちの姿を見る機会が減っている今、運動会など、保護者が参観できる大きな行事において、「イベントに向けて特別なことをするのが園行事ではなく、日々の生活の流れから運動会や生活発表会があるのだ」ということを、丁寧に保護者に発信していくことが大切である。言わないと伝わらないということを意識していくことが必要であろう。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ・週案の反省やエピソードの検討を通して、子どもの姿を見取る ・研究保育の協議を通して、子どもの姿の変容を見取る ・アンケート項目 (大変そう思う A, そう思う B, あまり思わない C, 思わない D, 無回答 E) ① 「子どもは、幼稚園で遊ぶことを楽しいと感じている」 A85% B9% C0% D0% E3% ② 「子どもは、体を動かして遊ぶことを楽しんでいる」 A84% B9% C0% D0% E6% ③ 「子どもは、先生や友達とかかわることを楽しんでいる」 A84% B13% C0% D0% E3% ④ 「子どもは、自分の思いを話したり、友達の思いを聞いたりしている」 A31% B63% C3% D0% E3% ⑤ 「子どもは、幼稚園兄弟とかかわることを楽しみ、異年齢とのかかわりで成長が感じられる」 A59% B34% C3% D0% E3% ⑥ 「子どもは、自然とのかかわりや飼育、栽培活動を楽しんでいる」 A75% B22% C0% D0% E3% ⑧ 「子どもは、手洗い・うがいや持ち物の始末、着替え等を自分でしようとしている」 A53% B41% C3% D0% E3%
自己	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題 アンケートは各項目とも評価が高く、幼稚園の教育への理解の高さがうかがえる。ただ、異年

評価	年齢とのかかわりは、後半、学年をこえての活動に制限があったことから、保護者からは残念であったとの声が聞かれた。しかし、学年に分かれてそれぞれの保育室を ICT でつないで行ったお別れ会のように、子どもたちにとっては、この新しい試みも十分に楽しい、そして心がつながる活動になっていた。 参観・懇談など、後半からまとめの時期に実施できなかったことは、残念である。
	分析を踏まえた取組の改善 コロナ禍における感染対策に伴う行事の縮小や中止については、保護者に対して丁寧な説明を心掛けてきたつもりであったが、幼稚園の現状や教育についての理解はされているが、それでもやはり残念であるとの声が聞かれることが多かった。今後、更に、保護者の思いに寄り添った対応を心掛ける必要がある。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 コロナ禍における幼稚園の教育としては、十分な取組ができていると思う。感染対策という観点も大切なことであり、特にオミクロン株の流行においては、幼児や児童への感染も多く、十分な配慮が必要である。コロナ禍での評価としては、保護者のアンケート結果は十分であろう。むしろ、教職員の評価の方が厳しいものになっている。やはり、幼稚園としては、もっと何かできたのではないか、十分な経験をさせることができたのかという思いや、もっとしてあげたかったという思いがあったからのこの結果なのではないかと思う。

（２）幼小連携・接続に関して

具体的な取組 ・園内研修主題『一人一人が心を動かしながら、共に感じ合い、つながり合う保育を創る』と『学びに向かう力』の育成を意識した保育を進める ・『幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿』について小学校と共有し、公開保育の参加を促すなど、幼稚園教育の発信に取り組む ・『親子で絵本!』の活用を促し、家庭と連携して、絵本や物語などに親しみ想像する楽しさや言葉に対する豊かな感性を育む保育を進める
（取組結果を検証する）各種指標 ・連携や交流保育の回数及び、合同研修の実施回数 ・就学前の情報交換。就学支援シートもしくは個別の指導計画の活用や引継の実施状況 ・アンケート項目 ⑦「子どもは、絵本を見たり、お話を聞いたりすることを楽しみにしている」 ⑩「幼稚園は、保育所・小学校・中学校との連携を大切にしている」

中間評価

各種指標結果 ・緊急事態宣言および蔓延防止対策措置のため、連携や交流保育、合同研修共に実施なし ・個別の指導計画の作成時、保護者との面談において小学校との引継について説明し、管理職同士での情報交換を行った後、就学支援シートを保護者から小学校に提出した。就学前の情報交換は後期実施予定 ・アンケート項目（大変そう思う A、そう思う B、あまり思わない C、思わない D、無回答 E） ⑦ 「子どもは、絵本を見たり、お話を聞いたりすることを楽しみにしている」 A72% B22% C3% D0% E3% ⑩「幼稚園は、保育所、小学校、中学校との連携を大切にしている」

A69% B25% C0% D3% E3%	
自己評価	分析（成果と課題） 幼小連携においては、前期には予定することも難しい情勢であった。コロナ禍にあっても、年長児が種から育てた苗を、自分たちの進学予定の小学校に届けに行く『野菜と花の苗やさん』の取組は、子どもたちにとって、小学校を身近に感じることができる貴重な経験となった。『野菜と花の苗やさん』については、三校との連携を図ることができた。 また、進学に当たっては、支援の必要な子どもについての情報の共有や保護者支援を行ったことで、安心して保護者が小学校に我が子の進学について相談しに行くことができた。 新型コロナウイルス感染症についての園児・児童の状況の共有は、必要に応じて随時実施してきた。
	分析を踏まえた取組の改善 引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行った上で、後期には、交流保育も計画している。また、同じ研修資料を視聴したうえで、幼小合同で研究協議を行う研修会の企画、幼稚園の研究会（後野先生によるスーパーバイズ）の小学校への誘い掛けもしているので、教員同士の校種間連携も図れると予想される。実際に触れ合う機会が減っている分、ICTの効果的な活用を考えていく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・連携や交流保育の在り方の検討 実施回数及び、合同研修の実施回数 ・就学前の情報交換。就学支援シートの活用・個別の指導計画の引継の実施状況 ・アンケート項目 ⑦「子どもは、絵本を見たり、お話を聞いたりすることを楽しんでいる」 ⑪「幼稚園は、保育所、小学校、中学校との連携を大切にしている」
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 今の情勢において、今までやってきたことを当たり前を実施することは難しく、小学校でも、例年の取組やイベントが中止されることが多い。一緒に取り組める機会があれば、こちら（なかよし会）からも伝えるようにしていきたい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果 ・連携や交流保育の在り方の検討 実施回数及び、合同研修の実施回数 ・就学前の情報交換。就学支援シートの活用・個別の指導計画の引継の実施状況 ・アンケート項目 ⑦「子どもは、絵本を見たり、お話を聞いたりすることを楽しんでいる」 A75% B22% C0% D0% E3% ⑪「幼稚園は、保育所、小学校、中学校との連携を大切にしている」 A66% B25% C6% D0% E3%	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 コロナ禍の取組としては難しい面があるということは、一定の理解が得られているが、実際に同じ場で過ごす子どもたち同士の交流場面が減ったことに対する残念な思いは感じられる。 絵本の取組については、なかよし会の読み聞かせを楽しみにする子ども（や保護者）が増え、絵本に親しむ環境ができている。 小学校長や育成支援学級の担任が実際に園に足を運び、子どもの様子を見たり実態について担任と話をしたりなど、総合育成支援にかかる子どもの小学校への引継はしっかりとできていた。

	分析を踏まえた取組の改善 ICT を活用した交流に引き続き取り組んでいくとともに、コロナ禍でも実施できている幼小連携・接続について、保護者にも積極的に発信していく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 今年度は、子どもたちが小学校に行く機会がもてて良かった。実際に小学校に行き、その場の雰囲気や様子を知ることのできる安心感は大きい。深草小学校では、幼稚園のなかよし会でかかわっている地域の大人が、各学年の授業に参加しているので、その時に「幼稚園の時に遊んだの覚えてる?」「また会えたね」と、声をかけられることも多い。そのことが大人側の励みにもなっているのだが、子どもにとっての安心感にもつながっていると思う。

(3) 預かり保育に関して

具体的な取組 ・子どもの興味関心に沿った活動を取り入れ、教育課程に係る時間内の保育と連携する ・長時間預かり保育利用の子どもの心身の負担に配慮した、短時間預かり保育時の遊びの環境づくりや援助を考える ・担任や教職員が緊密な連携を図る（責任体制と指導体制を整える） ・預かり保育の主旨を伝え、保護者への理解を求め、連携を深める
(取組結果を検証する) 各種指標 ・預かり保育の参加人数 ・アンケート項目 ⑨「子どもは、ふかふかランド（預かり保育）の時間を楽しみにしている」

中間評価

	各種指標結果 ・預かり保育ののべ参加人数（4月 178 名、5月 264 名、6月 309 名、7月 256 名、8月 121 名、9月 273 名） - 利用率（休園中の 1 名を除き）100% ・アンケート項目（大変そう思う A、そう思う B、あまり思わない C、思わない D、無回答 E） ⑧「子どもは、ふかふかランド（預かり保育）の時間を楽しみにしている」利用者のみ回答 A63% B31% C0% D0% E6%
自己評価	分析（成果と課題） 前期は、新型コロナウイルス感染症対策のため、講師を呼んでのサッカー教室などのイベントを実施することはできなかったが、毎月継続してカレンダーづくりに取り組んだり、通常の保育での遊びを預かり保育時にも取り入れたり、安全に遊べる人数・子どもの状態を見極めながら園庭での遊びも実施したりなど、工夫しながら取り組んでおり、アンケート結果でも、子どもたちは楽しみにしているという評価を得た。 預かり保育の利用率は 100%で、保護者のニーズの高まりが実感される。保育終了後の子どもたちの遊びの場を保障すること、子育て支援・保護者の就労支援としての幼稚園の役割が大きくなってきていると感じられる。
	分析を踏まえた取組の改善 子どもたち、保護者のニーズに応えるべく、取組を継続していく。10 月からは緊急事態宣言も解除されたので、前期の活動に加え、外部講師の活用やなかよし会による絵本の読み聞かせ、

	ボール遊び、昔遊びなどの取組も充実させていく。 (最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 ・ 預かり保育の参加人数 ・ アンケート項目 ⑨ 「子どもは、ふかふかランド（預かり保育）の時間を楽しみにしている」
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 子どもたち同士の喧嘩やトラブルを避けようとする子どももいるという。「喧嘩するほど仲が良い」ということは、もう今では難しいのかもしれない。預かり保育では、異年齢の子どもたちが自然にかかわって遊んでいる。特に、コロナ禍で学年合同での取組が難しい時期においては、預かり保育が異年齢の子どもたち同士がかかわりを学ぶ良い機会になっている。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 ・ 預かり保育の参加人数 ・ アンケート項目 ⑨ 「子どもは、ふかふかランド（預かり保育）の時間を楽しみにしている」 A84% B9% C0% D0% E6%
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 預かり保育については、高評価で、子どもとともに保護者の満足度も高い。特に、なかよし会との交流やサッカー教室、毎月のカレンダーづくりなどは、ほぼ全員が参加するほど楽しみにしている子どもが多い。 分析を踏まえた取組の改善 預かり保育時に、なかよし会の方による絵本の読み聞かせ、昔遊び、ボール遊びなど、交流する場があることは、本園の特徴であり、とても良い取組であると思う。来年度は、早朝預かり保育も始まるので、保護者とともに子どもたちにとっても良い取組となるようにしていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 預かり保育の時間が、地域の人と触れ合う良い機会になっている。子どもにとっても、地域の人にとっても大変楽しい活動となっていることで、それを家庭で聞く保護者も肯定的に受けとめられる活動となっているのだと思う。地域の人が実際に子どもにかかわることができる貴重な機会であるので、これからも広く声をかけてたくさんの地域の方にも知ってもらえると良いと思う。

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組 ・ 未就園児たまご組（0～3歳児親子）ぷちひよこ組（2歳児親子）ひよこ組（3歳児親子）において、発達に応じた遊びや場を提供し、子育ての楽しさを共有できる場とする ・ 園庭開放の時間を設け、心と体を解放して遊ぶ場を提供する ・ ほっこり子育て広場の取組（ふかふかタイム）として、誕生会の後、保護者と園長との懇談の場を設ける ・ 在園児保護者と未就園児保護者が子育てについて語り合える場（説明会）を提供する (取組結果を検証する) 各種指標 ・ 教育相談の登録数及び参加数
--

- ・ふかふかタイム実施時の保護者の思いや意見

中間評価

各種指標結果

- ・教育相談の登録数（3歳児ひよこ組9名、2歳児ぷちひよこ組19名、0～3歳児たまご組61名（2歳児ぷちひよこ組19名含む））
- ・ふかふかタイム実施時の保護者の思いや意見

自己評価

分析（成果と課題）

地域の各施設が新型コロナウイルス感染症対策のため、閉鎖したり活動を休止したりしていたため、コロナ禍においても対策を講じて実施している本園の未就園児クラス（たまご組・ぷちひよこ組）に訪れる人が多く、登録者数が激増した。しかし、昨年度登録していた2歳児ぷちひよこ組の内数名は、今年度の本園の未就園児3歳児ひよこ組への登録ではなく、他園（私立幼稚園および保育園）への入園という選択をした。ぷちひよこ組で本園の教育活動について見たり聞いたりしていたにも関わらず、そのような結果を招いてしまうことが大きな課題としてある。逆に、昨年度、ひよこ組に登録していた人は、すべて、本園に入園している。

分析を踏まえた取組の改善

3歳児ひよこ組においては、在園児と共に園行事に参加する今の取組の在り方を継続していく。
2歳児ぷちひよこ組においては、積極的に保護者に園の取組やひよこ組の保育について知らせていくとともに、中々、継続して参加しにくい家庭には個別に声をかけていく。
ぷちひよこ組・たまご組の取組や行事の告知など、チラシの配布、ポスターの掲示、ホームページ等を通して、積極的に発信していく。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・教育相談の登録数や参加数
- ・ふかふかタイム実施時の保護者の思いや意見

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

家庭教育に難しさが感じられる家庭もあり、幼稚園への依存度が高いのではないかと感じる。まずは、保護者と幼稚園の信頼関係をしっかりと結ぶことが大切で、信頼関係ができていれば、子どもも安心して健やかに成長してく。子どもたちに今どのようなことを育てたいのかということ幼稚園から発信し、深草幼稚園の教育を伝えていくこと、そして思いを共有していくことが大切であると思う。全体に伝えることで理解を促すことが難しいのであれば、個別にかかわっていくことも必要である。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

- ・教育相談の登録数や参加数
- ・ふかふかタイム実施時の保護者の思いや意見

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

登録者数、毎回の参加者数共に多く、本園のたまご組・ぷちひよこ組を楽しみにしている方が多い。また、ひよこ組についても、毎日ほぼ欠席することもなく、保育を楽しんでいる。来年度のひよこ組の登録も、今年度を上回る数となったが、ぷちひよこ組については、1月以降、2歳児以下の未就園児クラスを実施することができなくなったため、来年度の説明会・登録募集を実施することができなかった。

	1月以降は、まん延防止重点措置の為、ふかふかタイムを実施することができなくなったが、日々の保育の中で聞かれる保護者の声は、どの未就園児クラスの実施に対しても満足度が高い。 分析を踏まえた取組の改善 まん延防止重点措置により、ひよこ組の午後保育が中止、たまご組・ぷちひよこ組の実施も中止となった。来年度につながる大切な時期に、未就園児クラスを実施できなかったことは大きな痛手である。来年度早々、ひよこ組・ぷちひよこ組の対象年齢の家庭には個別に声をかけ、本園の取組を発信していきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 幼稚園で数年取り組んでいる『幼稚園兄弟』はとても意味のある取組だと思う。そこに、そら組・にじ組の子どもだけでなく、未就園児ひよこ組の子どもも参加しているのはとても良いことだと思っている。 園庭などで、園児たちに混じって、小さな子どもたちとその親と一緒に遊んでいる姿をよく見かけるが、とても温かい良い雰囲気、そんな姿を見ることが、まだ深草幼稚園に来たことのない親子も「行ってみようかな」という気持ちになると思うので、どんどんアピールしていくと良いと思う。

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組 ・学校運営協議会を中心とした深草幼稚園における教育活動に対する理解と協力、参画を促す ・学校評価などでの保護者・地域の声を活かし、社会に開かれた教育課程の実現に取り組む ・地域活動に積極的にかかわり、子ども達に多様な経験を保障すると共に、地域の方々への深草幼稚園に対する親しみと教育活動に対する理解を深める
（取組結果を検証する）各種指標 ・地域行事へ参加回数 ・子どもの姿や保護者、地域の声の聞き取り ・アンケート項目 ⑩「子どもは、近隣への遠足や、地域の方の保育参加を通して、深草地域に親しみを感じている」

中間評価

	各種指標結果 ・新型コロナウイルス感染症対策のため、地域行事の実施なし ・子どもの姿や保護者、地域の声の聞き取り ・アンケート項目（大変そう思うA、そう思うB、あまり思わないC、思わないD、無回答E） ⑩ 「子どもは近隣への遠足や地域の方の保育参加を通して、深草地域に親しみを感じている」 A69% B25% C3% D0% E3%
自己評価	分析（成果と課題） 昨年度同様、新型コロナウイルス感染症対策のため、例年通りの活動ができず、地域の代表である方を多く含んでいるなかよし会（学校運営協議会）の方と触れ合う機会が激減し、また、頻繁に行われていた地域行事もすべて中止になった。 その中であつても、実施することができた「七夕の集い」でのなかよし会の方との出会いや、年長児そら組を中心とした「野菜と花の苗やさん」の園行事は、地域の方と触れ合う貴重な機会となった。更に、昨年度から続けている「ふかふか竹林」（地域の竹林）の世話をする活動の今年

	度の出だしとして、年長児がタケノコ掘りに出かけ、持ち帰ったタケノコを年少児にじ組にふるまう活動ができたことは、次のにじ組のふかふか竹林の世話をする活動の大きな動機づけとなった。 このように、園内や地域での自然体験を大切にしてきたこと、またその体験を通して子どもの育ちがみられたことが高評価につながったと思われる。
	分析を踏まえた取組の改善 地域行事については、今年度、すでにどの行事も中止が決まっており、参加する機会はない。なかよし会の方や地域の竹林の担当者の方とのつながりを大切にしながら、できる限りの取組を行うとともに、発信を大切にしていく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 ・子どもの姿や保護者、地域の声の聞き取り ・アンケート項目 ⑩「子どもは近隣への遠足や地域の方の保育参加を通して、深草地域に親しみを感じている」
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 今年度、前期はほぼ緊急事態宣言や蔓延防止対策措置などが出されており、地域における行事も中止が続き、また、今までなかよし会が参加し協力してきた園行事にも、一緒に取り組むことが難しい状況であり、非常に残念である。宣言が解除された後期、園行事への参加や稲荷山など地域に共に出かける機会を大切にしていきたい。

最終評価

	・子どもの姿や保護者、地域の声の聞き取り ・アンケート項目 ⑩「子どもは近隣への遠足や地域の方の保育参加を通して、深草地域に親しみを感じている」
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 ほぼ肯定的な意見が多いものの、例年よりも A 評価が少なかったり、教職員では A 評価よりも B 評価の方が多かったりしている。ただ、保護者や地域の方への聞き取りに対しては、コロナ禍であっても、取組は進められているという思いは感じておられる様子がうかがえる。 分析を踏まえた取組の改善 年間を通してみると、昨年度に比べて、地域の方との触れ合いや地域へ出かける行事等の実施はできているのだが、続くコロナウイルス感染症対策での行事の縮小や中止に目が向きがちで、その結果、十分な満足を感じられないのではないかと推測される。「例年通りできなかった」という発信ではなく、「今年度はこのような形で取り組むことができている」という方向性での発信を心掛けていく。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 なかよし会をはじめとして、深草では、地域とのかかわりが密であることが特徴でもあり、良い点でもある。今年度、いろいろな取組を実施することはできたが、最後のお別れができなかったこと、食を共にする行事ができなかったことはやはり残念である。

（５）教職員の働き方改革について

重点目標	・教職員一人一人が自らの健康を守り気持ち良く働くことが、幼稚園における教育の充実につながるという自覚をもち、自らの働き方についても意識改革を行う ・校務支援員の効果的な活用を進める
具体的な取組	・毎週水曜日ノー残業デーとする ・土日、祝日及び、緊急の場合を除き、平日の１８時以降の電話対応は控える ・園内行事の見直しを図る
(取組結果を検証する) 各種指標	・教職員の勤務時間及び年休取得状況 ・水曜日の退出時刻

中間評価

各種指標結果	・水曜日の退出時刻については、きちんと実施できているとは言えないが、曜日を問わず、勤務時間の超過は減少している。
自己評価	分析（成果と課題）
	教職員の仕事への意識は高く、昨年度から続く非常事態においても大きな問題なく、順調に園経営を進めることができています。本園に長く勤務している教職員や、本務者がベテランの教員であることから、大きな勤務時間の超過は避けられている。しかし、一方で、本務者が少ない幼稚園においてはどうしても限られた教職員に負担がかかることが避けられず、持ち帰り仕事を減らすことは難しい。
	分析を踏まえた取組の改善
どうしても時間外勤務が生じてしまう時期を除き、退出時刻を守れる状況にある教職員については退出時刻に園を出られるよう、また、それが難しい教職員においても１８時過ぎには退出できるよう促すとともに、教職員の意識改革に努める。	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
・教職員の勤務時間及び年休取得状況 ・水曜日の退出時刻	学校関係者評価
学校関係者による意見・支援策	
長く続くコロナ禍において、先生方も大変苦勞されていると思う。また、家庭において子どもに身に着けさせるようにしてきたこと（生活習慣など）が、幼稚園に任されている傾向があることも懸念される。園行事への参画など、協力できるところは、なかよし会としてもこれからも一緒に取り組んでいこうと思っている。	

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	・教職員の勤務時間及び年休取得状況 ・水曜日の退出時刻
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	勤務時間については、大きな行事前や多忙期以外、大きな超過は見られないが、慢性的に数少ない本務者の負担は大きく、退出時刻は遅くなり、持ち帰り仕事や休日の出勤も避けられない。

価	特に担任をもつ教頭においては、勤務時間が超過する傾向にある。
	分析を踏まえた取組の改善 仕事に追われる状況になることが多く、ぎりぎりの期日で仕事をこなすことになってしまう現状がある。計画的に進めることで効率化を図れるよう改善する。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 コロナ禍という今年度の状況の中、幼稚園生活の見直しや行事の組み直しなど、今の状況ならではの教職員の負担も大きいと思われる。この環境の中で、よくがんばっていると思うし、そのことは保護者にも伝わっているからこそ、アンケートの結果は良かったのだと思う。